

# 年間スケジュール

番組は変更となる場合もございますのでご了承ください。 のご案内は2017年1月に製作されたものです。

## 3月3日(金)

ナビゲーター二人のトークショウ×日本舞踊

岡田 嘉夫、葛西 聖司、旭 七彦

日本舞踊は大きく分類すると古典、新作、創作舞踊などがありますが、当日はトークを交えながらの進行、何を踊るかはblind program。

## 4月14日(金)

長 唄 菖蒲浴衣 若見匠 祐助

『菖蒲浴衣』は演奏曲として発表されました。舞踊化されたのは明治になってからです。あやめや菖蒲酒などの端午の節句から隅田川の船遊びなど初夏の季節感が踊られます。独舞あるいは群舞で踊られることもあります。

清 元 卯の花 花柳 智寿彦

新年の風物を題材とする歳旦淨瑠璃の一つです。卯の花とはオカラのことですが雪の枕詞に使われます。深川気分の佃の端唄、隅田川の風物、初春の鳥追いや萬歳の鼓など、粋で陽気です。ご祝儀ものです。

創 作 月恋 月光に遊ぶ 花柳 衛菊

振付：花柳衛菊  
青白い満月の光を浴びた時、人は人間であることを忘れてしまうような気がします。2000年国立劇場でのリサイタルが初演で、友禅染作家・石田凱宣作「月映」を着て踊ります。

## 5月26日(金) たまゆの會別会

大和楽 おせん 泉 裕紀

江戸の風情が歌われます。日本画家また挿絵画家そして舞台美術家でもあった小村雪岱の描いた「おせん」の廻燈籠をテーマにした舞踊で、行水をおえて夕涼みする女性と夕方の江戸の情緒が表現されています。

荻 江 八 島 花柳 珠絃

振付：花柳昌太郎  
謡曲『八島』からのものです。西国行脚の旅の僧が四国の八島(屋島)の浦で一夜をとったおり、義経の亡霊が現れ壇の浦合戦の物語を聞きますが、夜明けとともに義経の姿は消え失せてしまいます。

## 6月9日(金)

清 元 鳥さし 花柳 錦翠美

振付：二世花柳壽楽  
劇中の舞踊ですが、後に独立して踊られるようになりました。鳥さしとは、江戸時代、竿の先にトリモチをつけ、小鳥をさして(捕えて) 売るのが生業としていた職人のことです。

清 元 四君子 林 千永

梅、竹、蘭、菊の四つの花を気品の高い君子にたとえ四君子と言いますが、四つの花を題材とした踊りです。南画家(文人画)が画材として好んで取り上げています。ご祝儀曲として定評があります。

常磐津 粟 餅 林 千永・花柳 錦翠美

江戸の街々をうたいはやししながら、おかしな身ぶりをして、粟餅を売り歩いた粟餅売りを描写した風俗舞踊です。粟餅屋の男二人で踊られますが、時には『団子売』の夫婦のように二人で踊られることもあります。

## 9月8日(金)

創 作 書 筆、澄みたる 花柳 衛菊

振付：花柳衛菊  
日本の歴史は、流れるような、時には激しい書体で、人々に書き留められてきました。初演は2016年南仏アヴィニョンフェスティバル参加公演です。

地 唄 鉄 輪 葛 夕カ女

捨てられた夫への嫉妬の一念で、その夫を取り殺そうと丑の刻参りをすのお話です。前半は夫に見捨てられた悲しみ、後半は嫉妬に狂い鬼となり凄惨な後妻(うわなり) 打ちに出かけますが、常帛(へいはく)に隔てられ去って行きます。

清 元 老 松 旭 七彦

1747年に出来た常磐津最古の曲です。謡曲『老松』からの発想ですが、そのまま清元に移調したものです。秦の始皇帝が狩りに出た際、大雨に遭い小松の陰に雨宿りするが……。長唄の老松とは趣の違うご祝儀曲です。

## 10月6日(金)

清 元 玉 兎 西川 扇重郎

一人で七役を踊る七変化舞踊の一つで、本名題は『玉兎月影勝』。月から飛び出たうさぎが、飛団子(影勝団子)を作ったり、おとぎ話の「カチカチ山」の爺・婆・兎・狸などを一人で踊り分けます。

長 唄 島の千歳 若見匠 祐助

島の千歳とは『平家物語』に、白拍子の元祖は島の千歳と和歌の前の二人、とあります。その島の千歳を題材にした作品です。前半は白拍子の男舞、後半は娘方の踊りですが、今回は立ち役の素踊りで全編踊られます。

清 元 旅 奴 藤間 章吾

『仮名手本忠臣蔵』の各段から一人ずつを取り出し、十一役を踊る十一段返しの変化舞踊の八段目の踊りです。加古川本蔵の娘小浪が母に連れられ、京の山科の力弥のもとに嫁入りする道中のお供をする奴のバロディです。

## 12月15日(金)

長 唄 菊慈童 花柳 智寿彦

振付：二代花柳壽輔  
昔、帝の寵愛を受けた慈童が、帝の枕をまたいだ罪で山奥に追われます。帝は枕に経文の二句の偈を書き与えます。慈童は毎朝それを読み、礼拝をし、菊の葉に書き写します。その葉の露が霊薬となり七百歳の長寿を迎え帝の温情をしのびます。

長 唄 供 奴 花柳 奈千穂

七変化舞踊の一つです。吉原田圃から大門へ行く途中、主人の供の奴が、主人に遅れて屋敷を出たので主人を見失ってしまいます。主人を探しながら、主人の真似や六法を振ってみたり、足拍子を踏むなどが踊られます。

長 唄 島の千歳 泉 裕紀・花柳 珠絃

白拍子を題材にした舞踊です。前半は白拍子の男舞、後半は娘方の踊りです。烏帽子、水干、太刀などの白拍子の姿で踊られますが、女性の振り袖でも踊られます。普通女形の振りですが、素踊りで立役の振りの場合もあります。

旭 七彦 あさひ ななひこ

旭流家元。振付家、演出家。文化庁芸術祭賞受賞。慶応義塾大学卒業。朝日カルチャーセンター、NHK文化センター講師。  
旭七彦乃会、玉光会等主宰。  
国際交流基金の海外公演にも多数参加。日本民俗芸能協会理事。

五條 詠絹 こじょう えいぐぬ

東京藝術大学舞踊専攻修士課程修了。東京新聞主催全国舞踊コンクール邦舞第一部にて第1位。文部科学大臣奨励賞、東京都知事賞、みやこ賞を受賞。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。

花柳 伊三郎 はなやぎ いさぶろう

1954年神戸市生まれ。幼少より実父・花柳五三郎に師事。2003年から米国ワシントン桜祭より招聘を受け、海外公演を継続中。2008,09年には米国Swarthmore 大学より特別客員教授の称号を得る。現在、玉川大学芸術学部教授。

花柳 珠絃 はなやぎ たまいと

文化庁芸術祭賞受賞。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。数々の海外フェスティバル公演に参加。子供による日本舞踊集団「未来座」のプロデュース、振付。「珠いと会」主宰、「たまゆの會」共宰。区内の小中学校にて伝統文化普及の授業実施。

林 千永 はやし ちえ

東京藝術大学音楽学部三味線専攻卒業。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞、芸術選奨文部大臣新人賞、文化庁芸術祭賞を受賞。国際交流基金の海外公演にも多数参加。踊り手としての活動の一方、振付家として舞踊、演劇、オペラなども手がけている。日本民俗芸能協会理事。林流千永派家元。

泉 裕紀 いずみ ゆうき

6才より泉徳右衛門、泉摩津英に師事。文化庁芸術祭賞、日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。富士市文化奨励賞受賞。エディンバラ、アヴィニョン演劇祭公演に参加。おどり集団「DAN」の振付、プロデュース。「ゆうきの会」主宰、「たまゆの會」共宰。

西川 扇重郎 にしかわ せんしげろう

日本大学芸術学部演劇学科卒業後、西川流宗家西川扇藏の内弟子に入る。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞、舞踊批評家協会新人賞などを受賞。日本舞踊振興財団の海外公演に数多く参加。日本舞踊協会 新作公演「道成寺」振付補。「扇重郎会」主宰。

花柳 衛菊 はなやぎ えぎく

創作を中心に内外で活動。毎年、国内公演や仏アヴィニョン等の国際演劇祭参加公演など、2016年自主リサイタル計56回目。埼玉大学、実践女子大学他で出前授業実施。仏、英他、世界12都市で招待公演。文化庁芸術祭賞、文部大臣奨励賞2回、田中良貴、武智鉄二賞他受賞。日本民俗芸能協会理事。エギクJP代表。

花柳 智寿彦 はなやぎ ちずひこ

幼少より母・花柳万寿彦に入門。早稲田大学第一文学部を卒業後は、人間国宝・花柳寿南海に師事。古典だけでなく創作活動にも励む。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞・最優秀賞受賞。「さくや会」主宰。よみうり日本テレビ文化センター講師。

藤間 章吾 ふじま しょうご

藤間流勲右衛門派師範、「藤豊会」主宰。幼少より母・藤間章豊に、後に藤間秀嘉に師事。「弧の会」同人として舞踊批評家協会新人賞、文化庁芸術祭優秀賞受賞。玉川大学文学部芸術学科演劇専攻卒業。劇団俳優座演劇研究所講師。朝日カルチャーセンター講師。

日本舞踊ダンサーズネットワーク代表

北寄崎 嵩

きたぎさき たかし

舞台照明家。駒沢大学卒業。1978年より国立劇場にて歌舞伎、文楽、日本舞踊の照明に従事。2003年国立劇場を退職。(株)北寄崎に入社、様々な分野の照明デザインに取り組む。1989年第9回日本照明家協会賞大賞受賞。文部大臣奨励賞受賞。日本照明家協会編『日本舞踊の照明』を編集。

日本舞踊ダンサーズネットワーク副代表

清水 美輝

しみず よしてる

洋舞(バレエ・モダンダンス・児童舞踊)や邦舞(日本舞踊・民俗芸能の舞台公演・新舞踊)など、幅広く、数々の舞台監督や音響を手がける。日本民俗芸能協会理事。

## 観客ナビゲーター

公演をご覧いただく皆様に、演目の世界観や背景などについてもより深くお楽しみいただくための「案内人」を右のご両名にお願いしています。



葛西 聖司 かさい せいじ

東京都生まれ、中央大学法学部卒業。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオのさまざまな番組を担当。現在はその経験を生かし、歌舞伎など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化の講義などで大学の教壇にも立ち、朗読教室や執筆活動も続けている。



岡田 嘉夫 おかだ よしお

1937年神戸市生まれ。画家。源氏物語を題材にした小説の挿絵のほか、田辺聖子氏をはじめとする、作家との共著による現代的な絵草子を多く手がける。近年では「歌舞伎絵」の制作に力を注ぐ一方、古典文化の発展にも力を尽くしている。

### 春の会

### 秋の会

他

### 夏の会

### 冬の会



金曜赤坂座を主宰する日本舞踊ダンサーズネットワークは、舞踊家と

スタッフがお互いに連携することで更なる日本舞踊の発展を図ることを目的とした集団です